

トルコ・シリア 大地震緊急 子ども支援



6ヶ月が経ってなお、
数百万人の
子どもたちが
支援を必要としています。

「地震が起きたとき、家にヒビが入り、揺れ始めました。怖くて、心臓がドキドキしました。そのとき、バルコニーにいた私を守るように、母は覆いかぶさり、父も、きょうだいを同じように守ろうとしていました。そして家の下敷きにならないよう1階に降りて、祖父の家に行きました。」その夜以降、カリームさん家族は、祖父の家の庭にテントを張って暮らしています。

トルコ南部からシリア北部で起こった大地震により、両国で620万人の子どもを含む1,800万人近くの人々が影響を受けました。また、5万6,000人が犠牲になり、数百万人が自宅を失いました。地震があった地域は、発災前から紛争や気候変動、経済的格差の影響が深刻な地域でした。

「以前は何の心配もなく遊んだり勉強したりしていたけれど、地震の後は怖くて、眠れなくなったりしました」（カリームさん、9歳）

発災数時間後に、セーブ・ザ・チルドレンのチームは、現地のパートナー団体とともにさまざまな支援を開始しました。テントや毛布の配布、食料と衛生用品キットの提供、貯水タンクや「こどもひろば」の設置など、子どもたちが日常を取り戻せるよう、さまざまな支援を行いました。カリームさんの状況は改善されつつありますが、子どもたちはまだまだ支援を必要としています。

復興は始まったばかりで、不安定な時期でも

「地震の後、怖くて眠れなくなりました...でも今はもう怖くありません。」
(カリームさん、9歳)

2023年2月に起こった強い地震によりシリア北西部にあった自宅が倒壊しました。現在は、セーブ・ザ・チルドレンの「こどもひろば」に通っています。

皆さまからの ご寄付でできたこと

皆さまのご寄付と、現地パートナー団体、コミュニティの迅速な支援活動により、31万8,657人の子どもを含む58万6,951人にシェルター、食料、水・衛生支援、保健医療などを提供することができました。

トルコのスタッフとシリア北西部の現地パートナー団体は、被災地で迅速に活動を行い、子どもたちとその家族に緊急支援を提供しました。また、現地のパートナー団体との長年にわたる連携により、シリアとトルコのそれぞれのコミュニティで信頼関係を築くことができ、迅速な支援が可能となりました。そして、多くの現地スタッフも地震の影響を受けながら、緊急支援活動にあたりました。

半年が経ち、支援の形は、緊急支援から子どもたちとそのコミュニティの回復力を高める長期的なプログラムに移行しています。

数字で見る トルコ・シリア大地震 緊急支援活動

2023年2月以降、セーブ・ザ・チルドレンとパートナー団体は、**318,657**人の子どもを含む**586,951**人に支援を届けました。

294,653人

現金支援を含む、食料と生計支援を届けました



9,959人

栄養支援を届けました



19,429人

メンタルヘルスと子どもの保護の支援を届けました



144,004人

シェルターと生活必需品を届けました



228,912人

水・衛生支援を届けました



15,474人

学習再開のための支援を届けました



12,125人

保健医療サービスを届けました



2023年6月末現在

トルコでの支援活動



子ども96,409人を含む
176,542人に支援を届けました

2023年2月から6月末現在



衛生用品キットの配布の様子

私たちは、現地のパートナー団体であるINOGAR、Pikolo Association、Sened、Support to Life、Temas、トルコ赤新月社とともに、最も被害を受けた人々に対する緊急支援と長期支援の両方を提供してきました。

6ヶ月間の活動内容は以下のとおり

- 安全な飲料水やトイレ・シャワーを利用できない人々に対し、衛生用品キットや生理用品などが入ったキット数千個の配布
- 避難中の7万6,000人が利用可能な水タンクとシャワー付きトイレの設置、貯水タンクと配水管網の修理・設置の実施
- 子どもたちや母親、乳幼児が遊んだり、精神的なサポートを受けたりできる安心・安全なスペースの設置
- 都市部・農村部の両地域で、子ども保護に関する支援や精神保健・心理社会的支援にアクセス可能なよう、「こどもひろば」を常設のものに加え、移動式でも設置
- 被災した学校、運動場、サッカー場を修理・修復し、生徒と教員に学習キットを配布
- 被災地の女性協同組合や起業家が製品を開発し、イスタンブールの市場で販売するのを支援
- 温かい食事や、主食の提供、基本的な調理器具の配布
- 家を失った人々に対し、テント、マットレス、毛布、ベッドカバーの提供

トルコでの支援活動



各世帯に清潔な水と 衛生施設への アクセスを確保

夏が近づくにつれ、食べ物や水を媒介とする病気のリスクが高まっています。そのため、私たちは安全な水の提供、シャワーやトイレの設置、衛生用品キットの配布など、包括的な支援を行ってきました。例えば、欧州連合（EU）との連携のもと、大勢の避難者が、ごく限られた数の仮設トイレを利用していたハタイ県などを中心に、トルコ南部全域に貯水タンクやシャワー、トイレを設置しました。



夏の到来とともに、衛生的な環境を確保・維持することはさらに重要になっています。ザリファさんは、居住地域の衛生状態が改善されたことに前向きな気持ちを抱えています。

13歳のザリファさん*は、新しいシャワーとトイレを利用しています。

「（以前は）倒れそうになるほど、ひどいものでした。（でも、新しいシャワーが設置されたからは）良くなりました。シャワーがきれいだから、シャワーの後は本当にリラックスできます。きれいな場所は落ち着きます。」
セーブ・ザ・チルドレンは、トルコのパートナー団体「Support to Life」と連携し、ガジアンテプ県とハタイ県、カフラマンマラス県、アディヤマン県で、震災による影響を受けたコミュニティにテントや衛生用品キット、仮設トイレ、水を提供しています。



「気温の上昇に伴い、安全な水が手に入らなくなったり、衛生状態が悪くなったりすることが、健康リスクを高めています。例えば、水を媒介とした伝染病のリスクが高まっています。」
ケマル（ハタイ県プログラム責任者）

メレクさん（38歳）は、3人の子どもがいます。全身が赤くかゆくなる皮膚病を子どもが発症し、気温の上昇が子どもたちの健康に影響を及ぼしはじめているかを訴えます。Support to Lifeは、メレクさん一家に、5人家族が衛生的な環境を維持し、シラミやその他の病気から子どもたちを守るよう、2ヶ月間使用できる家庭用洗剤を含む衛生用品キットを届けました。



ハタイの被災家庭に配布される衛生用品キットなど。このキットは5人家族で2ヶ月間使用できます。

シリアでの支援活動



子ども222,248人を含む
410,409人に支援を届けました

2023年2月から6月末現在



パートナー団体であるBonyanを通して提供された毛布、バケツ、飲料水入れなど生活必需品をテントに持ち帰るムニールさん(14歳)・ハレドさん(12歳)兄弟と父親のモハマドさん。

セーブ・ザ・チルドレンは、壊滅的な地震にいち早く対応し、最も被害の大きかった地域に暮らすシリアの人たちに必要な支援を提供しました。現地パートナー団体と連携して以下のような支援を届けました。

- 冬の間、家族が暖かく過ごせるよう、燃料とヒーターを提供
- 地震で深刻な被害を受けた人々に、勝利不要で食べられる食品、食料、衛生用品、生理用品などを配布
- 子どもたちが安心・安全に遊び、学ぶことができる空間「こどもひろば」の設置
- 家を失った家族に非常用テント、マットレス、毛布、調理器具を提供
- コミュニティでの廃棄物管理システムの導入を含め、給水タンク、飲料水、トイレを提供
- 子どもの保護の分野では、子どもたちのニーズに応えるものになるよう、地域の人たちとの連携強化やトレーニングを実施し、個別の事案に対応できるようにした
- 精神的・感情的苦痛を抱える子どもたちのこころのケアに対応できるよう、教員を対象として非認知能力トレーニングを実施
- 被災した学校や教育施設の修復、学習スペースの設置、学習支援キットの配布。また教師のトレーニングを通して、学習の継続を確保
- 各世帯が一次医療と性と生殖に関する保健サービスを受けられるよう、遠隔地で移動式診療所を実施
- 栄養不良や貧血のリスクがある5歳未満の子どもや妊娠中の女性が、必要な治療を受けられるよう保健医療サービスと連携
- 食料、医療品など生活必需品購入のための現金などの提供

シリアでの支援活動



メンタルヘルスプログラムと 精神保健・心理社会的支援

地震は、被災した子どもたちのメンタルヘル스에大きな影響を及ぼします。セーブ・ザ・チルドレンは、現地のパートナー団体と緊密に連携し、子どもたちが安心・安全に過ごせる空間「こどもひろば」の開設をおこなっています。

「こどもひろば」では、アートや音楽、遊びを通して、子どもたちが、地震による影響や日常性の回復につながるようなアクティビティが提供されています。

また、こうした活動を通して、より支援が必要と判断された子どもやその家族には、さらなる精神保健・心理社会的支援を届けることにつながります。



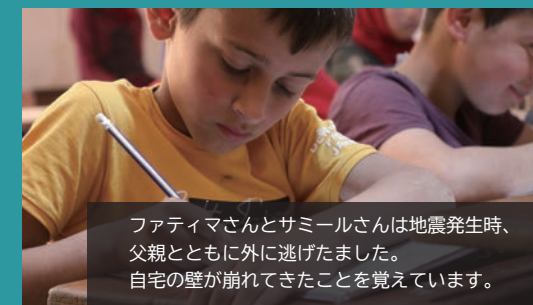
こどもひろばでの活動に参加する
カリームさん（9歳）

ファティマさん（6歳）とサミールさん（10歳）のきょうだい（右）は、パートナー団体「Bonyan」が運営する「こどもひろば」に通っています。サミールさんは、「アートのクラスをしてくれたり、ゲームを企画してくれたりします。絵を描いたり遊んだりします。子どもの権利についても学びました。

カリームさんも、Bonyanが運営する「こどもひろば」に通っています。学校内にある教育センターで、生徒のためにアクティビティや精神保健・心理社会的支援を提供しています。

カリームさんは、「今はもう地震は怖くないです」と、話しています。

「人生がまったく違うものになりました。以前は一軒家に住んでいましたが、今はテントで暮らしています。震災前は決まった時間に起きていましたが、今は地震の時間に起きています。午前4時18分に目が覚めます。テントは狭いです。外出もあまりしません。すべったらけがをして（危険だから）父が外出させてくれません。」
（サミールさん、10歳）



ファティマさんとサミールさんは地震発生時、父親とともに外に逃げたました。自宅の壁が崩れてきたことを覚えています。

さらなる 支援活動に向けて

私たちは、創設から100年以上にわたり、
紛争や地震のような緊急事態において、
子どもたちやその家族に対し、迅速に支援を届けてきました。

**世界にはまだ支援を必要としている子どもたちがいます。
ご支援にご協力ください。**

企業の皆さま

下記メールアドレスまでご相談ください。
japan.corporatepartner@savethechildren.org

個人の皆さま

いのち・みらい貯金箱へのご支援にご協力ください

クレジットカードからの寄付



パソコン・スマートフォンから
ご寄付いただけます。

いのちみらい貯金箱

検索

郵便局(ゆうちょ銀行)からの寄付

郵便振込口座

00190-8-791030

加入者名

いのち・みらい貯金箱

- ※ 備考欄に「いのち・みらい貯金箱」とご記入ください。
- ※ 振込手数料はご負担をお願いしております。
- ※ 領収証ご希望の方は、振込用紙通信欄にその旨ご記入ください。



いつもご支援ありがとうございます

今回の災害に際して、被害にあった方々に寄り添い、
カリームさんのような子どもたちが再び安心して笑い、
遊ぶことができるように支援いただき、誠にありがとうございます。
カリームさんは将来の夢をこう語ってくれています。「大きくなったら医師になりたいです」

今後6か月については、両国で支援を必要としている人々にさらに迅速に対応できるよう、活動の規模を
拡大していく予定で、それには、以下のような活動が含まれます。

- ・メンタルヘルスと心理社会的支援プログラムの拡大
- ・対処療法にとどまらない栄養失調の「予防」への積極的な取り組み
- ・教育システムの強化
- ・貧困から脱却し彼ら自身のレジリエンスを効果的に確立するための手段の提供

まだまだやるべきことはたくさんあります。皆さまのさらなるご支援で、カリームさんのような数百万
人の子子どもたちが、紛争や災害から立ち直り、明るい未来に向かって普通の生活を送れるようにするこ
とができます。